

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 4月 10日

【評価実施概要】

事業所番号	0170201230		
法人名	株式会社二幸		
事業所名	グループホームひまわり		
所在地	札幌市北区北18条西2丁目1-3 (電話) 011-726-6364		
評価機関名	北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目1番地		
訪問調査日	平成20年3月6日	評価確定日	平成20年4月10日

【情報提供票より】(20年2月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)15年4月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 6人, 非常勤 3人, 常勤換算	7.4人

(2) 建物概要

建物構造	木造		
	3階建ての	2~3	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000~40,000 円	その他の経費(月額)	20,000~25,000 円
敷金	有(円) 無		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200 円		

(4) 利用者の概要(2月1日現在)

利用者人数	9名	男性 2名	女性 7名
要介護1	2	要介護2	2
要介護3	5	要介護4	0
要介護5	0	要支援2	0
年齢	平均 79歳	最低 68歳	最高 95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団 野沢病院・橋本歯科医院
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当事業所は、地下鉄駅からほど近く、交通の便に恵まれた環境に立地し、開設してから5年目を迎えようとしている。職員は熱意を持って日々のケアサービスに取り組み、「利用者中心の生活・利用者主役の生活」を実践し、利用者は日々明るく伸びやかに生活している。また、「残された力で暮らしの喜びと自信を」という理念を掲げ、利用者の力を活かしながらこれまでの暮らしを継続できるよう支援している。今後も地域の理解・協力を得ながら、地域に溶け込んで暮らし続けることが期待できる事業所である。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>前回評価での課題であった「事業所と地域の交流」・「地域への理念の啓発」について、地域の行事に積極的に参加するとともに、地域向けの事業所便りを発行するなど、改善に取り組んでいる。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全職員で外部評価の意義や内容を確認し、自己評価に取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>定期的に運営推進会議を開催し、事業所の運営状況や外部評価の結果等について報告し、構成員との意見交換を行っている。また、そこで出た意見・要望等を受け、地域と交流する機会を拡大し、防災マニュアルを刷新するなど、事業所の運営に反映させるとともに更なるサービスの質の向上に努めている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の来訪時に職員は繰り返し声かけをし、家族が意見・要望等を言いやすい関係形成に取り組んでいる。また、電話連絡や個別の便り送付にて利用者の暮らしぶりをこまめに報告し、家族との信頼関係を構築するよう努めている。金銭管理についても定期的に出納状況を家族に報告し、内容を明確にしている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>盆踊りや餅つき大会等の地域の行事や、近隣保育園の行事に利用者とともに参加している。また、清掃等の地域の活動にも参加したり、雑巾寄付等で地域に貢献するなど、地域との連携を積極的に図っている。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の理念を作り上げるとともに、地域密着型サービスの意義について全職員で確認し、日々のケアサービスを行っている。しかし、理念に反映させるまでには至っていない。	○	今後は、地域密着型サービスの在り方を踏まえて検討し、新たな理念を構築することが期待される。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の浸透・共有を図る機会を多く設けており、職員は日々理念に基づいたケアサービスを実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣の学校や保育園の行事や、盆踊り・餅つき大会等の地域行事に利用者とともに参加している。また、清掃等の活動や、雑巾寄付による地域貢献など、積極的に地域との交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員間で外部評価の意義や内容等について確認し、全員で自己評価に取り組んでいる。また、外部評価の結果を真摯に受け止め、会議において検討し、具体的な改善策を講じている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を開催し、事業所の運営状況や外部評価の結果等について報告するとともに、活発な意見交換を行っている。会議で出た構成員からの意見・要望等を受け、地域と交流する機会を拡大したり、栄養指導を実施するなど、事業所の運営に反映させるとともにサービスの質の向上に取り組んでいる。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	質問・相談等で市町村担当者やケースワーカー等と日頃から連絡を取っており、連携強化を図りながらともにサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時に利用者の近況報告を行っている。また、月に1度、写真を掲載した便りを発行し、利用者の暮らしぶり等を家族に伝えている。金銭管理については個別台帳を作成し、3ヶ月ごとに出納状況を家族に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書に事業所内部の苦情相談窓口を明示し、入居時に家族に伝えている。また、家族の来訪時に職員は積極的な声かけをし、家族が意見・要望等を言いやすい雰囲気作りに努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、利用者との馴染みの関係が継続することの重要性を認識しており、異動・離職を最小限に抑えるよう努めている。また、やむを得ず異動等があった場合は、十分な引継ぎ期間を設け、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、職員が交代で外部研修に参加する機会を設けており、受講後は伝達講習を実施したり報告書を作成し、研修内容の共有を図っている。また、チェックリストを活用し、職員一人ひとりが自己評価を行う機会を設け、更なるスキルアップに繋がるよう努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市や区の管理者連絡会や研修等に積極的に参加し、同業者と協働し、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に利用者本人・家族に事業所を見学してもらうとともに、職員との面談を重ね、事業所の雰囲気に馴染んでからの入居となるよう支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の暮らしにおいて、職員は利用者と様々な思いを共有するとともに、裁縫や趣味活動など、利用者の得意な事を教えてもらいながら支え合う関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者との会話・行動、さらに家族からの情報を通して一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当職員の記録を基に、毎月の会議において全職員で協議し、利用者本人・家族の意向を採り入れた介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとに介護計画の見直しを行うとともに、利用者の状態変化に応じてそのつどカンファレンスを実施し、職員の気付き・情報等を反映させた新たな介護計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の希望に応じ、通院時の送迎や外出時の付き添いなど、柔軟な支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者本人・家族の希望に応じて、かかりつけ医や協力医療機関への受診支援を行っている。また、状況に応じて受診時に職員が付き添うなど、適切な医療を受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の状態変化に応じて話し合う機会を設けているが、重度化・終末期の方針について全員で情報を共有するまでには至っていない。	○	今後は、利用者・家族・医師等を交えて話し合い、意思を確認しながら全員で方針を共有することが期待される。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者の誇りやプライバシーを尊重した声かけを心がけ、接遇の在り方について会議で話し合い、適切に対応している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者の力を見極め、一人ひとりのペースを大切に支援を行っている。また、散歩や買い物などの外出や、趣味活動など希望に応じた生活となるよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の力量に応じて、献立作成・調理・配膳などを職員と一緒にやっている。また、職員は音楽を流すなど工夫し、和やかな雰囲気の中で食事を楽しめるよう支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望に応じた週に2回の入浴支援を行っている。また、音楽を流したり、仲の良い利用者同士で入浴できるよう配慮するなど、寛いで入浴できるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事などの役割の支援や、絵画・創作・合唱など一人ひとりの力や好みに応じた楽しみごとや気晴らしの支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩・買い物・地域での行事参加に加え、入居前から利用していたデイ・ケアを継続して利用するなど、一人ひとりの希望に応じた外出支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	全職員で見守りを徹底することにより、日中は鍵をかけず利用者が自由に外出できるよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得ながら、避難訓練を実施するとともに、マニュアルを作成している。また、運営推進会議を通し、緊急時に地域から協力が得られるよう働きかけている。	○	今後は、利用者や地域住民も参加し、具体的な災害を想定した避難訓練を実施するとともに、訓練記録を整備することが期待される。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量を毎日記録し、利用者の健康状態に応じた栄養バランスを確保できるよう支援している。また、献立に関して管理栄養士から助言を受け、バランスのとれた食事内容となるよう支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、音・光が適宜調整されるとともに、装飾品により季節感を感じられるよう工夫され、利用者が居心地良く過ごせるよう配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者が使い慣れた、馴染みの家具・写真・思い出の品等が持ち込まれており、本人が落ち着いて過ごせるよう工夫している。		

※  は、重点項目。